

オプトアウト

- ・乳癌の手術を目標とした術前化学療法と、超音波検査による効果判定について

乳癌の術前化学療法は、手術を行うことが困難な進行乳癌を手術できるようにしたり、しこりが大きいために乳房温存手術が困難な乳癌を小さくして温存できるようにする効果が期待できる治療です。

化学療法の効果判定方法として行われる超音波検査は、患者さんへの侵襲が少ないことから、抗癌剤治療中に2～3回行い、この検査結果からどの程度しこりが小さくなったか判断し、術式や治療方針を検討します。手術直前にも行って癌の位置を確認し、摘出したものを病理診断で治療効果を判定しますが、抗がん剤がよく効いている癌では、しばしば治療効果判定中の超音波検査で見えにくくなってしまうことがあります。こういった癌は術後の病理診断でも浸潤癌細胞が消失していることが多く経験されます。術前化学療法という治療は、基本的には手術を見据えたものであり、見えにくくなるタイプの癌に対しては、目印となるマーカーを留置することが推奨されます。

・検討内容

対象となる患者さんは2023年1月～2025年7月に当院で術前抗癌剤治療中に乳癌が見えにくくなった18名の患者さんです。検討内容で使用するのは、平均年齢、乳癌ステージ、治療前・治療中の超音波検査での腫瘍サイズや性状、診断時の病理学的特徴、術後の病理学的治療効果です。見えにくくなる乳癌は、治療がよく効いていること（病理学的治療効果が高い）が予想されるため、比較対象として高い病理学的治療効果が得られていたが、超音波検査では視認可能であった患者さん42名（2021年9月～2023年10月）についても同じ内容を検討し、見えにくくなる乳癌の特徴を明らかにすることです。

・個人情報の保護

この検討で得られた情報は厳重に管理され、学術目的でのみ利用されます。検討結果は主として統計学的に処理・解析されており個人が特定されることはありません。検討結果の発表に際し、一部の患者さんの画像が参考所見として提示されていますが画像は匿名化されて個人の特定はできません。本検討参加者以外の第三者に個人情報が流出することはありません。プライバシーは厳重に保護されますのでご安心ください。

・検討の意義および目的

手術前の化学療法において超音波検査上見えにくくなる乳癌を予測し、マーカー留置の判断の一助とする。

・協力の拒否について

この研究にご自分のデータが使用されることを拒否される場合は、下記の問い合わせ先に連絡下さい。
たとえ、協力を拒否されても、今後の健診や診療の不利益になることはありません。しかし、拒否のお申し出のあった時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合には、研究結果を破棄できないことがあります。この場合でも個人が特定されることはありませんので個人情報は保護されます。

施設名：神鋼記念病院

住所：651-0072 神戸市中央区脇浜町1丁目4番47号

代表電話番号：078-261-6711

所属：生理検査室

担当者：磯部祥子